



2024年度 須磨学園中学校入学試験

国 語

第 1 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、
受験番号シールを貼り、受験番号と名前を記入しなさい。

- すべての問題を解答しなさい。
- 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 解答は、1 行の枠内に 2 行以上書いてはいけません。また、字数制限のある問題については、記号や句読点も 1 字と数えることとします。
- 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

須磨学園中学校

※この冊子は再生紙・ベジタブルインキを使用しています。

【一】 次の「文章Ⅰ」を読んで、後の設問に答えなさい。

【文章Ⅰ】

人に対して第一印象を持つという能力は、その人の能力をハ^aン^ンシ^ンヤ^ン的^的にハ^bッ^ッキ^キするという意味合いで考えると、かなり強力な能力と言っているでしょう。これもまた、人間の動物性にもとづく能力なのかもしれません。だからこそ、第一印象が^Aあ^あた^たつ^つて^てい^いる^るこ^こと^とが^が多^多い^いの^ので^でな^ない^いで^でし^しょう^うか。けれども、外れることも多々あります。

動物的な成長率を持って自然に発達してきたある部分の判断力というのは、おそらく第一印象を形作る上で大きな力をハ^bッ^ッキ^キして、しかもかなりの確率であたるのではないかと思っています。

10 しかし、それが^Bで^でき^きる^るの^のは^は大^大体^体青春^注期^期以^以前^前ま^まで^です^す。つまり、動物的に発達してきた判断力や印象で見る力は、赤^{あか}坊^{ぼう}のときから前思春期の十五、六歳^{さい}ま^まで^で終^はわ^わつ^つて^てし^しま^まう^うの^のです。

そのため、それ以降の年になると、第一印象ではあたらな^いで、これはしま^{った}た^たという経験もよくしますし、ま^{った}く^くの^のケ^けン^ントウ^{ちが}違^{ちが}い^いを^をす^する^るこ^こも^もた^たび^びた^たび^びで^です^す。青春^期以降は、他人を第一印象だけで判断してはだめだ^ということを悟^{さと}り、自分でそれを直そうとか、乗^のり^り越^こえ^えよう^うと人^{ひと}は^はす^する^るも^もの^ので^です^す。

そういう意識的な作用に加えて、人とのつきあ^いも^もフ^っえ^えて^てい^いく^くにつれて、人間の考え方や性格というのは、実際につきあ^つて^てみ^みな^ない^いと^とわ^わか^から^らな^ない^いも^もの^のだ^だ、と^とい^いう^う体^て験^{げん}も^もフ^っえ^えて^てく^くる^るは^はず^ずで^です^す。そ^そう^うし^して^てい^いく^くう^うち^ちに^に、第一印象^Cと^とい^いう^うも^もの^のは^はあ^あま^まり^りあ^あて^てに^にな^なら^らな^ない^いと^とわ^わか^かつ^つて^てく^くる^るの^ので^でし^しょう^う。

一方、第一印象で判断される側にとつても、同^Dじ^じよ^うな^なこ^こと^とが^が言^ええ^えま^ます^す。ゲ^えン^ンミ^ミツ^ツに人間の性格みたいなものだけを言^ええ^えば^ば、た^たし^しかに前思春期でほ^ほぼ^ぼ決^けま^まつ^つて^てい^いま^ます^す。だから、その人となりの七、八割は、その人の生まれつきの性格や育^{かん}き^きよ^うつ^つた^た環^{かん}境^{きやう}によると言^いつ^つて^てい^いい^いで^でし^しょう^う。しかし、残りの二、三割は、自分の意志の力や人間関係の経験などをもとにして、後から自分でつく^つく^くつ^つて^てき^きた^た部^ぶ分^{ぶん}が^があ^あり^りま^ます^す。

30 つまり、無意識だけではなくて、意識的な性格もプラスされて人間というものができ上がるのです。そうした年^{ねん}齢^{れい}に達した人を判断しようとすると、タ^たン^ンな^なる^る第一印象では間^ま違^{ちが}え^えて^てし^しま^まう^うわ^わけ^けで^です^す。

E ただ気をつけなければならないのは、計算高さは、顔や挙^{きよ}措^そ振^ふる舞^まい^いの中^{ちゅう}に自然に出てきてしまう^{ということ}です。恋愛^{れんあい}関^{かん}係^{けい}であ^あろ^ろう^うと、一^{いっ}般^{ぱん}的^{てき}な人間と人間の関係であ^あろ^ろう^うと、それはあ^あま^まり^りいい印象を相手に与^{あた}え^えま^ませ^せん^ん。利害関係を自分の中^{ちゅう}で^でど^どう^うい^いう^う心^{しん}が^がけ^けで^で持^もつ^つて^てい^いた^たら^らい^いの^のか^かは、その人の全体の人格に関するこ^こと^とだ^だと^と思^{おも}い^いま^ます^す。利害ばかり考^{かんが}え^えて^てい^いた^たり^り、言^いつ^つて^てい^いた^たり^りす^する^るこ^こと^と

40 何となくそれが全体ににじみ出てきて、相手にもあまりいい印象を与えないかもしれません。

だから、利害関係を第一に考えるのはやめたほうがいい。ま^まつ^つた^たく^くゼ^ぜロ^ろに^にす^する^るこ^こと^とは^は無^む理^りに^にし^して^ても^も、自^じ分^{ぶん}の^の判^{はん}断^{だん}力^{りき}の中^{ちゅう}に^に、何^な気^きなく含^くめ^める^ると^とい^いう^うぐ^ぐら^らい^いの^の気^き持^{もち}ち^ちで^で加^かえ^える^るよ^よう^うに^にす^する^るの^のが^が、い^いい^い人^{じん}格^{かく}の^のつ^つく^くり^り方^{かた}だ^だと^と言^いえ^えそ^そう^うで^です^す。

(吉本隆明『真贋』(二〇〇七)による)

注 青春^期：十代半ばから、二十代半ばまでの時期を指す。

一 の設問

問一 「外れることも多々あります」（——線部A）とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 第一印象に基づいて判断することは、人間の動物的な勘による能力だから。
- 2 判断が当たっていることが多くなれば、外れる可能性を考えなくなるから。
- 3 人間の動物的な判断である以上、絶対当たるということはないはずだから。
- 4 第一印象で人をあてることができる能力は、年を取るうちに失われるから。

問二 「それができる」（——線部B）とは、どういうことですか。その内容の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 動物性に基づいて、第一印象が育つということ。
- 2 成長した後第一印象が形作られるということ。
- 3 第一印象で判断がほぼ正確にできるということ。
- 4 動物的な能力を、自然に育成できるということ。

問三 「第一印象というものはあまりあてにならないとわかってくる」（——線部C）とありますが、なぜそう「わかってくる」のですか。その理由の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 人に第一印象を持つというのは、確かに強力な能力ではあるが、青春期以降の年になると、終わってしまうような能力だから。
- 2 第一印象だけで判断して失敗することを数多く経験することによって、人は、見た目によらないものだと思うようになるから。
- 3 人を見た目だけで判断してはならないと心がけるのに加え、実際に付き合ってみなければ分らないと気づくようになるから。
- 4 年齢を重ねるうちに、人間の外面も内面もすべて、現実につき合うことによってしか分からないものだと考えるようになるから。

問四 「同じようなこと」（——線部D）とありますが、それはどのようなことを言っているのですか。その内容の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 第一印象で判断する側も、第一印象で判断される側も、あまりあてにならない判断をしているという点では、大した違いはないということ。
- 2 第一印象で判断される側の人間の性格とは、生まれとは無関係に、意志や経験に基づき、その未来を自分の力で切り開くものだという事。
- 3 人間というのは、生まれつきの性格や育った環境といった無意識的な面と、意志や経験といった意識的な面とで構成されているということ。
- 4 人間の性格の大部分は無意識に作られているが、残りは意識的に作るもので、第一印象による判断は、あまり正確ではないということ。

問五 「ただ気をつけないといけないのは」（——線部E）という文が、本文で果たす働きについての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 人間は意識的に自らを作るという前の段落の話題を受け継ぎながら、補足という形で、どのような点を意識すべきなのかについて、読者を誘導している。
- 2 第一印象はあてにならないという前の段落までの注意点に付加する形で、人間関係で気をつけないといけない点について、読者の注意を喚起している。
- 3 人間形成においては、意識的な性格が極めて重要だという前の段落の話に説得力を持たせる形で、具体的な注意点について、新たな話題を展開している。
- 4 人間は思い通りの自分になることができるという前の段落に、逆接という形で、だからと言って好きなように振る舞ってはならないと注意を促している。

設問は、裏面に続きます。

(ii) 次に示すのは、【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んだ後のAさんたちの話し合いの様子です。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の内容を踏まえた意見として、適当なものはT、適当でないものはFと、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の関係性は、【文章Ⅰ】の「第一印象があたっていることが多い」ことについて、【文章Ⅱ】が、その理由の一つを説明しているといった関係性になっているね。
- 2 第一印象による判断の正しさについては、【文章Ⅰ】では、自身で育んだ能力であるという説明に対して、【文章Ⅱ】では、予測が実現されるよう、相手に振る舞わせているという違いがあります。
- 3 【文章Ⅱ】の「予測の自己実現」から、人間はお互いに同調する性質があることが分かります。だから、自分が利己的に振る舞えば、相手も利己的に振る舞うということになるわけですね。
- 4 そういう意味では、【文章Ⅱ】の「現代は情報社会である」という記述を根拠として、【文章Ⅰ】の「利害関係を第一に考えるのはやめたほうがいい」という結論を導くことができません。
- 5 ただし、【文章Ⅰ】の「利害関係を第一に考えるのはやめたほうがいい」という表現からは、本文の主張としては、「利害関係」を超えた人間関係を理想とすべきであると読むことができます。
- 6 私は、【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】からは、情報によるイメージで相手を判断するような現代社会だからこそ、人間関係を考える際には自身の「利害関係」を優先しすぎない方がいなという理解をしました。
- 7 お互いが「利害関係」に囚われていると、結果的にみんなが得をするか、損をするか、そういう話ってないのかな？ いつの間にか、第一印象の話から、経済や社会制度の話になりそうだね。

問九 めも線部a～fのカタカナに相当する漢字を楷書で書きなさい。

- | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|--------|
| a | ハンシャ | b | ハッキ | c | ケントウ |
| d | フ(えて) | e | ゲンミツ | f | タン(なる) |

二 次の詩を読んで、後の設問に答えなさい。

やさしい記憶きおくをつれて

A 雨はささやいてくるのだった

見上げれば 窓ガラスの向こう

まっすぐな雨脚aが

5 木の葉をリズミカルbにたたいている

B 雨がすべての音をのみこんでいく

C わたしは緑色の時のページをめくっている

ひとつのテーブルに四つの椅子いす

10 ひとり去り またひとり去り

D 今は二つの椅子が さみしく向かいあっている

とおくひびくものがあり

こんな日は

15 注 あの子たちが残っていた衣類の整理をしよう

注 ポリ袋cに入れて きゅつとしめれば

E それは永遠の袋

気がつけば

20 F 雨粒あまつぶがオレンジ色に光っている

G 少しでも幸せをはこんで

雨が

あがった

(房内ふさうちはるみ「少しでも幸せな日」による)

注 ポリ袋…ポリエチレンなどの合成樹脂じゆしを原材料とする袋の総称そうしやう。自然に分解しないが、耐久性たいきやうせいはある。

二の設問

問一 ~~~~~線部 a c の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の中から、それぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a 雨脚

- 1 降った雨でできた水たまり。
- 2 しとしとと雨が落ちる先。
- 3 土砂降りの雨が降る方向。
- 4 筋をひいて降りそそぐ雨。

b リズミカルに

- 1 調子よく
- 2 機嫌よく
- 3 都合よく
- 4 効率よく

c ぎゅつと

- 1 後悔しないよう
- 2 極度に緊張して
- 3 強く力を込めて
- 4 勢いよく一気に

問二 この詩は、何連でできていますか。漢数字のみ答えなさい。

問三 「雨はささやいてくるのだった」(——線部 A) について

の説明として適当でないものを一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 雨音をきっかけとして展開されてゆく話である。
- 2 「雨はささやいてくる」は擬人法が使われている。
- 3 「ささやいてくる」から、雨はほぼ降っていない。
- 4 文末の過去形は、導入の働きを果たしている。

問四 「雨がすべての音のみこんでいく」(——線部 B) についての説明として適当でないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「雨は」(2行目) から、「雨が」へと変わり、より筆者の実感に近い表現がなされている。
- 2 「わたし」には、雨が室内のあらゆる音をかき消すほどの雑音に聞こえたことが分かる。
- 3 雨音は、外界から隔絶された「わたし」が内省を深めてゆくきっかけとして描かれている。
- 4 「のみこんでいく」という現在形の表現からは、筆者の実感がありありと伝わってくる。

問五 本文全体から客観的に推測できる「わたし」(——線部 C) の説明として適当なものを、次の中からすべて選び、番号で答えなさい。

- 1 「わたし」はずっと室内にいる。
- 2 「わたし」は女性である。
- 3 「わたし」は主婦である。
- 4 「わたし」は高齢者である。
- 5 「わたし」には子どもがいる。

問六 「今は二つの椅子が さみしく向かいあっている」(——線部 D) とありますが、なぜそう感じているのですか。その理由の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 大切にしていた四つの椅子が、二つしか残っていないことに、過去には二度とは戻れない喪失感を抱いたから。
- 2 過去を思い返し、自分の所から一人ずつ去っていった子どもたちとも二度と会えないことに気づいたから。
- 3 アルバムを見て、家族全員で過ごした日々を追想し、雨の日に死別した子どもたちを愛おしく思い出したから。
- 4 残された二つの椅子を見て、家族全員で過ごした楽しい過去が思い出され、子どもの不在を寂しく感じたから。

設問は、裏面に続きます。

問七 「永遠の袋」(——線部E)についての説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「永遠」は、この袋が朽ちることなく、恒久的に残り続けることを表している。
- 2 「袋」は、子どもたちの辛い記憶を思い出さないよう閉じ込めたものである。
- 3 体言止めから、後文には「になる」が省略されていることを、明示している。
- 4 体言止めを用いて、「わたし」の見た物を際立てつつ、後に余韻を残している。

問八 「雨粒がオレンジ色に光っている」(——線部F)についての説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 周りの自然と混じり合い、雨の色が変化した。
- 2 すぐれなかった「わたし」の体調が回復した。
- 3 木の葉の雨粒がすべて見えるほど視力が良い。
- 4 色彩の変化を通して、時間経過を表している。

問九 「少しだけ幸せをはこんで」(——線部G)とありますが、「少しだけ」に込められた思いについての説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「わたし」は、いなくなった子どもたちを寂しく思ったが、子どもたちが着ていた衣類をまとめた袋を、子どもが確かにそこにいた思い出のよすがと見なし、多少は寂しさを紛らすことができた。
- 2 雨が止んで、気持ちも少しは落ち着き、たとえ子どもたちと会えなくなったとしても、自分に残された長い人生の時間を、子どもたちの分まで、精一杯生き抜こうと前向きな姿勢を取り戻している。
- 3 薄暗く、朝から降り続いた雨が止んだ後、偶然、外の美しい夕暮れを見て、子育てに精一杯だった自分の人生には、まだまだ気づかなかった美しさがあることを知り、満ち足りた思いに浸っている。

4 家から子どもたちがいなくなった後、何も手が付かずに、散らかしたままだった荷物の整理をすることで気持ちも整理され、美しい夕暮れに自分の気持ちを投影し、悲しみが多少は浄化されている。

問十 本文の内容・構成・表現の説明として適当でないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 1行目・2行目と、22行目・23行目とは、対照的な表現であると言える。
- 2 8行目・11行目と、13行目・17行目とは、対照的な心情が表現されていると解釈できる。
- 3 詩中の言葉を踏まえれば、この詩では二色の色の移り変わりを読み取ることができる。
- 4 8行目の「緑色の時のページをめくっている」は、具体的ではない意味を含んでいる。
- 5 22行目・23行目の「雨が／あがった」は、筆者の実感の表出であり、省略法の効果も見えて取れる。



↓ここにシールを貼ってください↓

受 験 番 号			

名 前	
-----	--



2024年度 須磨学園中学校 第1回入学試験解答用紙 国語

※		※
問八		
(ii)	(i)	
5	1	↓
6	2	
7	3	↓
		↓
	4	↓

※											
問七											
120		100		80		60		40		20	

※	※	※
問五	問三	問一
問六	問四	問二

(※の欄には、何も記入してはいけません)

一



※	※	※	※	※	※	※	※
問十	問九	問八	問七	問六	問五	問二	問一
							a
							b
							c
						問三	
						問四	

(※の欄には、何も記入してはいけません)

二

※		
問九		
e	c	a
f	d	b
(なる)	(えて)	



2024SUMAJ0110

※

※

※

